

第118回 ほほえみ 開催



1月16日（水）第118回 ほほえみを開催しました。
8名の方が参加してくれました。

2月27日（水）18時より当院北館1階多目的ホールミントにて、
がんサロン開設10周年記念講演を開催します。

“がんサバイバー同士による体験の語りと傾聴が持つ力”と題し、がん患者さんとご家族の
3名よりそれぞれの体験記を報告いただきます。がん患者さんとご家族から闘病中に感じていた
ことや悩んだことなどについて語っていただくことで、少しでも多くの方に共感いただければと
思います。是非ご聴講下さい。

次回のほほえみは、2/20（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局】

『たくさんの人たちに支えられている医療』

（がん体験記）

“チーム医療”という言葉があります。私もがんになってはじめて、この言葉の存在を知りました。そして、がんになってはじめて、

「私一人に、こんなにたくさんの人たちが関わってくれているんだ」ということを知りました。

それは医師や看護師さんはもちろんのこと、麻酔科の医師、薬剤師さん、放射線科の技師のみなさん、理学療法士の方々、管理栄養士の方をはじめとする調理に携わってくれているみなさんです（もちろん、スタッフの方々、全てです）。

がんの診断から、手術、病理、放射線、リハビリ、入院中の食事、薬の処方・・・と、文字通り、“チーム”として、がん患者一人一人の治療や生活を考えてくれている——。驚きでした。

それと同時に、安心感と、

「がんと闘っているのは私一人じゃない。みんな一緒に、私のために闘ってくれているんだ」という思いにも包まれました。

中でも、薬剤師の方にお薬を手渡されたときの、

「副作用は大丈夫ですか？」との言葉が、今でも強く印象に残っています。

薬剤師の方は、お仕事として聞かなければならないのかもしれませんが。患者のみなさんにお声掛けしているのかもしれませんが。でも、こうして言葉をかけていただいたことに、気持ちが安らいだのは言うまでもありません。

“我慢強い”と言われていた日本人ですが、「つらい」という言葉や「ここをこうしてほしい」など、口にされた方がいいのかもしれない・・・と今では思うようになりました。

言わなければ伝わらない。伝わらなければ、医師や看護師さんも、きっとどうしていいのかわからない。

『がんは、患者と医療者みんなが闘ってゆくもの』——。

なのだと、時間が経ってみて、改めて感じさせられました。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）